



# 第1海兵航空団



# MV-22B オリエンテーションブリーフ



# 議題

- 海兵隊組織の説明
  - 第1海兵航空団のミッション
  - 第1海兵航空団の隷下部隊の概要
    - 海兵隊中型ティルトローター(傾斜式回転翼)機中隊(VMM)の紹介
- フライトモード
- MV-22B オスプレイの性能と利点
- MV-22B オスプレイの運用 - 地域への影響の低減
- アジア・太平洋地域におけるMV-22B オスプレイ



# 海兵空陸任務部隊(MAGTF)

## 海兵遠征軍(MEF)

- 最大のマグタフ
- 全領域における作戦
- 20 - 90K人の海兵隊員
  - I MEF - カリフォルニア
  - II MEF - ノースカロライナ
  - III MEF - 沖縄



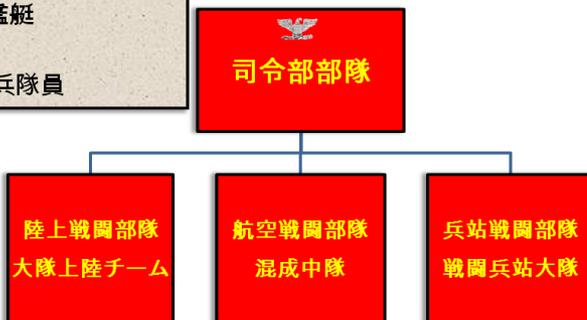
## 海兵遠征旅団 (MEB)

- ミドル級ファイター
- 強制進入機能
- 任務に適合される
- 3 - 20K 人の海兵隊員



## 海兵遠征部隊 (MEU)

- 7 個の常設ミュー
- 最も活発なマグタフ
- 前方展開
  - 3隻の輸送艦艇
- 持続的存在
- 1.5 - 3K 海兵隊員



## 特殊目的マグタフ (MAGTF)

- 任務に応じた
- 特殊な任務
- 通常は特別な目的のために使用
- 特別な目的に適合されたスタッフと構成
- 臨時構成部隊





# 第1海兵航空団のミッション 海兵隊航空部隊の六つの役割

▶ ミッション: 艦隊海兵軍を支援するため、下記を主とする航空作戦を実施する:

- 攻撃的航空支援 (OAS)
- 対空戦闘 (AAW)
- 強襲支援 (AS)
- 航空偵察 (AR)
- 電子戦 (EW)
- 航空機及びミサイルの管制 (C2)



第1海兵航空団司令官:  
スティーブン“スティック”ラダー准将



沖繩

沖繩

岩国

ハワイ

沖繩



第1海兵航空司令部中隊



第18海兵航空群



第12海兵航空群



第24海兵航空群(-)



第36海兵航空群



海兵航空  
連絡隊(嘉手納)



第4海兵航空管制中隊



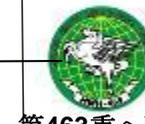
第2海兵航空支援中隊



第12海兵  
航空兵站  
中隊



第242海兵戦闘機攻撃  
中隊 (全天候)



第463重ヘリ中隊



第262MV22  
中隊



第265MV 22  
中隊



第18海兵戦術  
航空管制中隊



第18海兵航空通信中隊



第171海兵航空支援中隊



第24海兵航空  
支援分遣隊



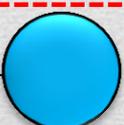
第367軽攻撃  
ヘリ中隊



第172海兵  
航空支援中隊



第12海兵航空  
兵站中隊



低高度  
防空大隊

UDP



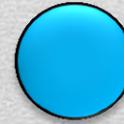
海兵戦闘機  
攻撃中隊 (全天候)



海兵戦闘  
攻撃飛行隊

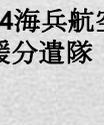


海兵電子  
攻撃飛行隊



海兵攻撃  
飛行隊 (-)

UDP 中隊



UDP 分遣隊



重ヘリ中隊



軽攻撃  
ヘリ中隊

第152海兵空中給油輸送中隊



VMGR-152

5



# オスプレイ中隊



ミッション:

攻撃支援のための戦闘要員、物資、装備の輸送を、遠征・統合・諸職種共同作戦に、昼夜、天候を問わず提供することによって、海兵空陸任務部隊を支援する。



UNCLASSIFIED



# 飛行モード

## 垂直離陸／垂直着陸(VTOL)

- VTOL: ヘリのように見えヘリのように機能する



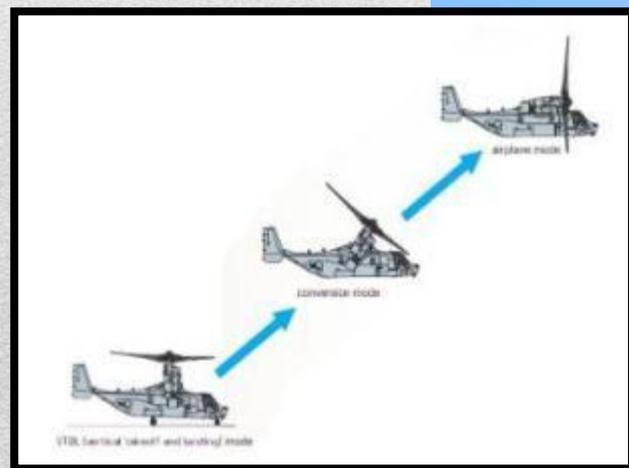
## 転換モード

- VTOLモードから固定翼モードに転換



## 固定翼モード

- 高速
- 高高度
- 長距離
- 主に固定翼モードで飛行



# MV-22B オスプレイの機能とメリット

## • 安全第一

- 優秀な運用安全記録を保持しています。
- アメリカや世界中で飛行し、ハイチ、リビア、イラク、アフガニスタンなど厳しい環境で訓練、人道支援、戦闘活動を実施してきました。また、海兵遠征部隊(MUE)へも何度も派遣されています。

## • 革命的な技術 – スピード、搭載量、航続距離

- ヘリコプターの機能と固定翼機のスピードや航続距離を併せ持っています。
- 旧型のCH-46ヘリコプターと比べ2倍の速度、3倍の搭載量、4倍の航続距離を備えています。
- 高高度飛行及び空中給油が可能です。

## • 同盟国にとってのメリット

- 日本の防衛能力を強化します。
- 災害救助対応能力が向上します。
- 地域の平和と安全に、より効果的に貢献します。

## • 沖縄にとってのメリット

- 比較的音が静かでより高く飛行し、県外でも訓練を実施します。
- より高く、より早く飛行するため人口密集地での飛行を減少します。
- その独特な機能により、地域全体に配備が可能で航空訓練移転計画(ATR)にも参加するため、沖縄での配備および訓練時間が削減されます。



世界中での飛行時間：

**150,000時間以上**

日本到着以降の飛行時間：

**6,000時間以上**

沖縄でのシュミレーター

使用時間：

**1,500時間以上**

“垂直に離陸と着陸が可能な飛行機”

# MV-22B 運用 - 地域社会への影響を軽減

## ● MV-22 コックピットのデジタル・ムービングマップ

- パイロットは離陸前にコンピューターに飛行ルートを入力します。
- 乗務員は地上の位置から正しいルートを確認します。
- 人口密集地域や注意の必要な場所を回避します。
- 安全性を強化します。

## ● 全ての航空機は、午後10時以降、地元にとって特別な日、日曜日の飛行をできるだけ少なくし、運用上必要な時のみ飛行

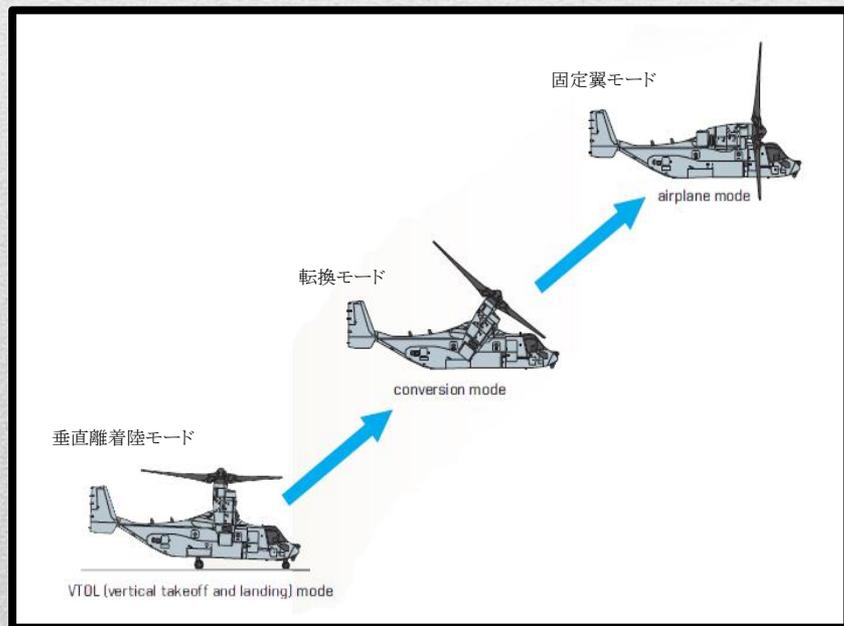
## ● 理解を深めるため長期的に継続して啓蒙活動を実施

- 日本政府高官訪問日、オリエンテーション飛行を実施しています。
- 報道関係者対応やオリエンテーション飛行を実施しています。
- オスプレイ家族見学会や航空ショーに参加しています。
- 報道関係者、地元防衛局、日本政府向けに情報提供をしています。
- 二ヶ国語のMV-22 情報、概要書、ビデオなどに簡単にアクセスでき



# MV-22B 運用-重要事項

- 全ての飛行運用は標準航空交通手順を基準として、騒音軽減やその他既存の合意に従い、指定された飛行場空域の範囲内で運用しています。
- ほとんどのオスプレイ飛行運用は固定翼モードで飛行し、ヘリコプター(垂直離着陸)や転換モードは通常離発着時や、訓練施設やヘリパッドで実施されます。
- ヘリコプターや転換モードで普天間飛行場の空域や場集経路から出入りする際、全ての運用は安全に飛行を実施し、騒音を最小限に留めることに焦点を当てています。



MV-22B は、運用上および安全上の要求に従って転換モードを実施します。

- 飛行場に接近する際、安全着陸のために減速する目的で固定翼から転換モードに変換する必要があります。
- 常に安全性を第一に考え、機長の判断で最適な転換モードへの切り替えのタイミングを決めます。
- 着陸のためモード変換が行われる際、様々な天候や風況、航空管制必要条件、視界、その他の環境要因が関わってくるため、規定された正確な距離はありません。
- 機長は、米軍施設外や人口密集地上空で転換モードでの飛行を最小限に抑えるという合意を含む**全ての要因を考慮して、安全着陸のための転換モード開始のタイミングを決定**します。



# MV-22Bの運用 – 地域への影響を低減





# アジア太平洋におけるMV-22B オスプレイ

- 2012年7月: MV-22B、岩国到着
- 2012年9月: 機能試験飛行開始
- 2012年10月: MV-22B、沖縄への飛行移動
- 2012年10月: MV-22B、韓国オサンエアショーに参加
- 2012年11月: MV-22B、シミュレーター使用開始
- 2012年11月: MV-22B、グアムにおいて沖縄県外での訓練
- 2013年1・2月: MV-22B、沖縄県外での訓練、フィリピン及びタイ (コブラゴールド演習)
- 2013年2月: MV-22Bs、揚陸艦に着艦
- 2013年7月: MV-22Bs、オーストラリア派遣(タリスマンセイバー、クーレンドング演習)
- 2013年7-9月: MV-22Bs、第31海兵遠征部隊を支援 (艦上)
- 2013年10月: MV-22Bs、FL-1、及びトモダチレスキュー演習に参加
- 2013年11月: MV-22Bs、ダマヤン作戦(フィリピン)に参加
- 2013年12月: MV-22Bs、新田原エアショーに参加
- 2013年12月: MV-22Bs、BRIDEX演習(ブルネイ)に参加
- 2014年1月: MV-22Bs、フィリピン派遣 (強襲支援演習)
- 2014年2月: MV-22Bs、シンガポールエアショーに参加
- 2014年2月: MV-22Bs、タイ派遣(コブラゴールド演習)
- 2014年3-4月: MV-22Bs、第31海兵遠征部隊を支援 (艦上)
- 2014年3月: MV-22Bs、韓国派遣 (海兵遠征軍演習)



シミュレーター訓練



沖縄県外での訓練



新田原エアショー



人道支援・災害救援



水陸両用着陸

